

2010 MOTEGI Champion Cup Race Round 3

2010.8.8
Takuya Fujimoto

Race Report

出場クラス・・・スーパーFJ
出走台数・・・18台
ゼッケン・・・30

結果

予選

Pos	No	Driver	Type	Time
1	66	田仲 拓也	RD10V	2'03.274
2	5	佐伯 和洋	RD10V	2'03.815
3	17	早坂 公季	RD10V	2'04.241
4	14	中村 洋司	07J	2'04.522
5	7	中山 雅佳	07J	2'04.822
6	26	小野 真	07J	2'05.040
7	20	伊 建祚	RD10V	2'05.057
8	30	藤本 拓也	07J	2'05.222

決勝

				Best
1	66	田仲 拓也	RD10V	2'05.653
2	17	早坂 公希	RD10V	2'05.537
3	5	佐伯 和洋	RD10V	2'05.821
4	7	中山 雅佳	07J	2'05.827
5	30	藤本 拓也	07J	2'06.759
6	20	伊 建祚	RD10V	2'05.926
7	3	冲永 晃	KK-S	2'06.741
8	14	中村 洋司	07J	2'06.434

第3戦は、初めてのドライコンディションのレースとなりました。今回は、フォーミュラニッポンやF3クラスのレースと同時開催だったため、今まで練習してきた路面状況とは完全に違っていました。どのチームも、路面の状況を予想するしかない状態で、マシンをセッティングし、予選に挑むかたちになりました。

30号車は、予選で大幅にセッティングを変更して挑みました。木曜日、金曜日の練習走行では、リアのショックアブソーバーとスプリングを、かなり軟らかい物を使っていました。(第2戦の時に比べて)しかしそのセットでは、RD10Vマシン勢と同じ速度でコーナーを抜ける事は難しい状態であり、もっとコーナーの進入で、リアタイヤが踏ん張らないと進入速度を上げられませんでした。そこで予選では、リアのショックとスプリングを硬くして、新品タイヤのグリップ力で踏ん張らせようと考えました。

予選は20分間で、前半はなかなかクリアラップを取ることが出来ませんでした。他のドライバー達のほとんどが、5Lapほどでベストタイムを出している中、10Lap目にベストタイムが出る結果となってしまう、タイヤのグリップ力のピークにアタックすることが出来ずに予選を終えてしまいました。

変更したセッティングも、リアを硬くしすぎだったようで、完全にタイヤのグリップ力がマシンに負けてしまっていました。進入速度を上げていくとオーバーステアになり、タイムを上げることが出来ず、8番手のポジションで予選は終了となりました。

決勝でも、さらにセッティングを変更しました。マシンを、もう少しロールする方向へもっていくために、スタビライザーをソフトにし、フロントとリアのスタビの硬さのバランスを近くしました。そうすることによって、ロールをしやすくしました。

決勝は、10 週のレースでした。スタートが成功し、1 コーナーまでに1 台をパス。1 コーナーでかるく接触してしまいましたが、問題なく抜けることが出来ました。オープニングラップのヘアピンコーナーでは、得意の立ち上がり重視のラインで6 番手の26 号車のスリップに入り、バックストレートで26 号車をパスし、6 番手に浮上しました。

2Lap 目に、RD10V マシンの5 号車をパスし5 番手まで上がることが出来ました。すぐにまた5 号車に抜き返されてしまいました。その後の3Lap 目に、5 コーナーで後ろから追突されてしまい、衝撃でリアのロアアームが曲がってしまっていました。その場は、なんとか体勢をくずしながらも、踏ん張ってポジションをキープしたのですが、曲がってしまったリアのアームの影響か、ペースが上がらず、5 号車からはどんどん離されてしまいました。

それから先は、後ろの相手との戦いでした。明らかに後ろのマシンの方がペースが速かったため、なんとかブレーキングでインをつかせないように考えました。コーナーリング中に抜かれてしまうことはほぼありえないので、コーナーのボトムスピードを落としてでも、ブレーキングポイントを奥にするようにしました。その状態で、残りの7Lap を走りきり、そのポジションをキープしたまま、チェッカーを受けました。

6 位チェッカーかと思いきや、4 番手スタートの14 号車がジャンプスタートのペナルティで、ドライブスルーのペナルティを受けていたため、いつの間にか5 位チェッカーでした。ラッキーです。

今回のレースは、とても良い経験になりました。相手を抜くこと、相手に抜かせないこと、どちらもレースでは当たり前のことだけど、それこそが最も難しいことだと感じました。その二つともを、今回は練習することが出来、良い経験になりました。

自分よりも速い、前を走る相手に離されないようにしていくよりも、後ろにいる速い相手から抜かれないようにする方が、精神的に辛く、難しいと分かりました。今回経験できた事を、これからのレースに活かしていきます。結果には満足していませんが、とても良い経験になり、よかったです。

次のレースまでに、もっと練習して、セッティングをさらに煮詰めていければ、良い結果は必ず出せると思います。